

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 24 年 11 月 9 日)

顔淵第十二

【一】^{がんえん} 顔淵 ^{じん} 仁を問う。子曰く、己^{おのれ}に克^かちて礼^{れい}を復^ふむを仁^{じん}と為^なす。一日^{いちじつ}己^{おのれ}に克^かちて礼^{れい}を復^ふまば、天下^{てんか} 仁^{じん}に帰^きせん。仁^{じん}を為^なすは己^{おのれ}に由^よる。人^{ひと}に由^よらんやと。顔淵^{がんえん}曰^{いわ}く、其^{その}の目^めを請^こい問^とうと。子曰く、礼^{れい}に非^{あら}ざれば、視^みること勿^なかれ。礼^{れい}に非^{あら}ざれば聴^きくこと勿^なかれ。礼^{れい}に非^{あら}ざれば動^{うご}くこと勿^なかれと。顔淵^{がんえん}曰^{いわ}く、回^{かい} 不^ふ憫^{びん}なりと雖^{いえど}も、請^こう 斯^{この}の語^ごを事^{こと}せんと。

顔淵が仁を問いました。自分の私利私欲、世の中それに通っている人が多すぎるけれども、大礼は天下国家を治める人。小さな礼は自分自身や一家を治める人。これもなかなか自分自身の礼を治める、一家を治めるというのは難しい。

小礼で思い出したのが、以前少々申し上げました渋沢栄一の子孫で現当主の渋沢雅英氏にお会いした時に「家訓はいかがですか」と水を向けましたら、雅英氏の言い方が苦しくて「御存じのとおり我が一族は複雑な家系ですが、わたくしは家訓を信頼しておりません」という答えが返ってきました。考えてみれば、渋沢栄一は前妻の千代さんから、「論語は下半身について何も言っていないから貴方は好き勝手にやってようございましたねと皮肉られた」と色々な本に書かれています。渋沢栄一には、たくさんの子供達がありました。皮肉られた結果として、渋沢栄一が一族をまとめる為に家訓を作り、その後に孫の渋沢敬三さんに後を委ねました。論語をあれだけ天下に推奨した渋沢栄一さんですけど、大礼は守ったようですが、小礼は守ることが出来なかったようです。従って礼というのは、守るのはなかなか難しいものなので、自分自身の胸に手をあててここら辺を読んで戴くと人の事はなかなか言えない、自分の事も言えないのでと思うようになります。これはよく味わってみると良いかなと思います。

【二】^{ちゅうきゆう} 仲弓 ^{じん} 仁を問う。子曰く、門^{もん}を出^いでては大^{たい}賓^{ひん}を見るが如^{ごと}くし、民^{たみ}を使うには大^{たい}祭^{さい}を承^うくるが如^{ごと}くし、己^{おのれ}の欲^{ほつ}せざる所^{ところ}は、人^{ひと}に施^{ほどこ}すこと勿^なかれ。邦^{くに}に在^ありても怨^{うらみ}無く、家^{いえ}に在^ありても怨^{うらみ}無しと。仲弓^{ちゅうきゆう}曰^{いわ}く、雍^{よう} 不^ふ憫^{びん}なりと雖^{いえど}も、請^こう 斯^{この}の語^ごを事^{こと}せんと。

仲弓が仁を問いました。国家のところで考えて見れば、国家の感覚で話さないといけません、自分がやってほしくない事は人様にはしてはいけない。そうすれば国においても家庭においても恨みを受けることはないというところでも有名な文句です。国家で考えれば総

理大臣の話になります。現首相の野田さんは年内に解散したくない。しかし消費税をやったという実績を残したい、歴史に名を留めたいというのがありありとあるので、色々と大変なこととは思います。

論語の科白の解釈は、ひとつひとつの解釈をした上で自分の身のまわりと置き換えてみたり、国家の在り方で置き換えて見たり、自分の組織の中と置き換えて見たりすると、思わずニヤリとする部分がいっぱいあります。最近感じたのですが、家庭のことで置き換えて見ると苦笑いが多くて、国家の事を考えて見ると苦笑いではなくてアホじゃなからうかという部分の笑いが生ずる。ちょっとこれは逆転現象ではないかという気がします。